

オルテリウス『日本諸島図』1595年

Abraham Ortelius, *Iaponiae Insulae Descriptio*. Ludoico Teisera auctore. Antwerpen, 1595.

16世紀ヨーロッパで知られていた日本の地理的情報は元々マルコ・ポーロなどによる旅行記やイエズス会士の書簡に基づいていたが、そこでは日本の国土の形状に言及がされていなかったため、ミュンスターの「世界図」(1550年刊)やオルテリウスの「新アジア図」(1575年刊)のように、ヨーロッパの世界地図やアジア地図において日本は多くの場合、一つの円形として大雑把に表現されていた。1595年にアントワープで出版されたオルテリウスの「日本諸島図」は、西洋で作製された初めての本格的な日本地図である。その素図は1592年にポルトガル人地図製作者テイセイラからオルテリウスへ贈られた。テイセイラはアジアから帰国したポルトガル人からその素図を入手したと推測される。素図の情報源は、日本に渡航したポルトガル人の記録および日本から持ち帰った行基式日本図であると考えられているが、ポルトガル人やイエズス会士が持っていた地理的情報のイメージが投影され、誇張した形で表されている。例えば、九州の沿岸部などについては地理的情報が詳細に描写されており、「豊後」(Bvngo)という地名が九州全体に使われている。また、「京都」(Meaco)は日本の都らしく中心に大きく描かれている。さらに、未知の「北海道」はまだ描かれておらず、「朝鮮」は島として認識されている。なお、海上に描かれている船は日本とマカオの間を渡航していたポルトガルのカラック船を表しているだろう。テイセイラの地図は17世紀前半において日本地図の標準となり、当時多くの模写が作成された。同古地図は日文研貴重書データベースに収録されていて、オンラインで閲覧することができる。

(解説：フレデリック・クレインス)